

技術開発完了報告

関東森林管理局

課 題	エリートツリーのさし木品種化試験				開発期間	平成27年度～29年度	
開発箇所	茨城森林管理署 管内	担当 部署	森林技術・支援 センター	共同研 究機関	森林総合研究所 林木育種センター	技術開発 目 標	①
開発目的 (数値目標)	<p>初期成長や材質（強度）が特に優良な系統を第二世代精英樹候補木から選抜し、現場における初期成長などの実証試験を行い、育林初期におけるコスト削減ならびに需要に応じた商品生産のための、さし木用品種の開発に資するとともに民有林関係者の視察や研修の場として活用する。</p>						
実施経過	<p>○平成27年度 1 成長量調査 2 下刈り</p> <p>○平成28年度 1 成長量調査 2 下刈り</p> <p>○平成29年度 1 成長量調査 2 ICタグの取り付け 3 下刈り 4 完了報告作成</p>						
開発成果等	<p>平成25年および26年に設定された第2世代精英樹候補木のさし木苗により造成した試験地2箇所において、植栽木の成長量調査を毎年継続して行った。試験地2箇所のデータを統合して解析を行い、環境による影響を除いた成長能力であるBLUP値を、樹高について算出した。第2世代精英樹候補木のなかで最も優れた成長を示したものは、3年次樹高のBLUP値が2.13mであり、対照として用いた第1世代精英樹の「初期成長に優れた品種」である揖斐3号および上都賀7号の3年次樹高のBLUP値（それぞれ、1.60mおよび1.58m。）より30%以上高かった。この系統をはじめ、初期成長に優れた品種よりも優れた値を示した第2世代精英樹候補木は、約40系統あり、これらの中から初期成長に優れたさし木品種を選抜できると期待される。</p> <p>下刈り省力化のためには、雑草木を抜け出る目安となる樹高2.5～3.5mに、より早く到達することが重要となる。本課題の3年間においては、その目安の樹高に到達するクローンが出始めたところであり、正確な成長特性を把握するためにも、今後も継続的な調査を行う必要がある。</p>						

